

## 基本調査票

本調査票は、貴事業所の基本的な概要について記載していただくものです。

本調査票の記入日： 令和 3 年 9 月 1 日

設置・運営主体	社会福祉法人 埼玉県社会福祉事業団		
設置主体	社会福祉法人 埼玉県社会福祉事業団		
経営主体	社会福祉法人 埼玉県社会福祉事業団		
事業所名 (施設名)	そうか光生園	種別	障害者支援施設
所在地	〒 340-0001 埼玉県草加市柿木町1215-1		
電 話	048-936-5088		
FAX	048-932-1311		
Email	<a href="mailto:soukacouseien@sswc-gr.jp">soukacouseien@sswc-gr.jp</a>		
URL	<a href="http://sswc-gr.jp/souka/">http://sswc-gr.jp/souka/</a>		
施設長氏名	矢作浩之		
調査対応担当者	栗原浩	(所属、職名：副園長)	
利用定員	50名	開設年	昭和 63 年 10 月 1 日
理念・基本方針			
<p>○経営理念 埼玉県社会福祉事業団は、利用者、職員、地域社会がお互いに支えあい、共に歩む施設を目指し、地域福祉に貢献します。</p> <p>○経営方針</p> <p>1 県の福祉を支えるセーフティネット 利用者に安心・安全で快適な生活環境を提供するとともに、手厚い支援を要する利用者を受け入れ本県福祉のセーフティネットの役割を果たします。</p> <p>2 地域との共生 地域共生社会の実現に向け、地域の福祉課題に積極的に対応するとともに、地域に開かれた施設運営を行います。</p> <p>3 先駆的取組の推進 国や県の福祉施策の動向を踏まえ、民間施設をリードする取組を行い、本県福祉の向上に貢献します。</p> <p>4 人材の確保育成 「元気・優気・根気」を旨とする愛情と高い倫理性、専門性を有する人材の確保育成に努めます。</p> <p>5 安定的な経営基盤と透明性の確保 効果的・効率的な施設経営と継続的な改善により経営基盤の安定化を図るとともに、情報公開による透明性の確保に努めます。</p>			
開所時間 (通所施設のみ)			

## 【利用者の状況に関する事項】

○成人施設の場合（老人福祉サービスを除く）

18歳未満	18～20歳未満	20～25歳未満	25～30歳未満	30～35歳未満	35～40歳未満
名	名	名	名	3名	3名
40～45歳未満	45～50歳未満	50～55歳未満	55～60歳未満	60～65歳未満	65歳以上
1名	6名	7名	9名	5名	16名
					合計
					50名

○障害等の状況（保育所を除く）

・身体障害（障害者手帳を所持している利用者についてご記入ください。）

障害区分	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級
視覚障害	1名	名	名	名	名	名	名
聴覚又は平衡機能の障害	名	名	名	名	名	名	名
音声・言語、そしゃく機能の障害	名	名	名	名	名	名	名
肢体不自由	38名	10名	1名	名	名	名	名
内部障害（心臓・腎臓、ぼうこう他）	名	名	名	名	名	名	名
重複障害（別掲）	名	名	名	名	名	名	名
合計	39名	10名	1名	名	名	名	名

※区分が異なる複数障害で等級の認定がなされている場合は「重複障害」に記入ください。

・知的障害（療育手帳を所持している利用者についてご記入ください。）

A ※	B	C
16名	1名	名

※「A」には丸付きのAを含む。

・精神障害（精神障害者保健福祉手帳を所持している利用者についてご記入ください。）

精神疾患の区分	1級	2級	3級
統合失調症	名	名	名
そううつ病	名	名	名
非定型精神病	名	名	名
てんかん	名	名	名
中毒精神病	名	名	名
器質精神病	名	名	名
その他の精神疾患	2名	名	名
合計	2名	名	名

○サービス利用期間の状況（保育所を除く）

～6か月未満	6か月～1年	1年～2年	2年～3年	3年～4年	4年～5年
1名	2名	2名	6名	3名	名
5年～6年	6年～7年	7年～8年	8年～9年	9年～10年	10年～11年
名	1名	3名	2名	1名	1名
11年～12年	12年～13年	13年～14年	14年～15年	15年～16年	16年～17年
1名	3名	名	名	2名	1名
17年～18年	18年～19年	19年～20年	20年以上		
2名	名	2名	17名		

（平均利用期間： 14.6年）

【職員の状況に関する事項】

○成人施設の場合

	総数	施設長	事務員	主任指導員	指導員
常勤	23名	1名	3名	名	名
非常勤	32名	名	1名	名	名
	主任介護職員	介護職員	保育士	看護師	OT、PT
常勤	10名	6名	名	1名	1名
非常勤	名	25名	名	3名	名
	栄養士	介助員	調理員等	医師	その他
常勤	1名	名	名	名	名
非常勤	名	名	名	3名	名

社会福祉士	4名（名）
介護福祉士	9名（4名）
保育士	9名（4名）
	名（名）
	名（名）

（非常勤職員の有資格者数は（ ）に記入）

## 【本来事業に併設して行っている事業】

(例) 救護施設における通所事業 (定員 5 名)

地域活動支援センター通所事業 (定員 15 名)

障害者歯科診療事業 (埼玉県指定管理事業)

聴能訓練事業 (埼玉省委託事業)

相談支援事業 (草加市委託事業)

障害児等療育支援事業 (埼玉省委託事業)

## 【ボランティア等の受け入れに関する事項】

・ 令和 2 年度におけるボランティアの受け入れ数 (延べ人数)

137 人

・ ボランティアの業務

- 入浴時の整容ボランティア
- 利用者の買物の付き添いボランティア
- 利用者とのレクリエーションや日中活動のボランティア
- 陶芸、生け花、書道などの余暇支援ボランティア
- 除草などの環境整備ボランティア
- 理髪ボランティア等

## 【実習生の受け入れ】

・ 令和 2 年度における実習生の受け入れ数 (実数)

社会福祉士 人

介護福祉士 15 人

その他 人

### 【施設の状況に関する事項】

※耐火・耐震構造は新耐震設計基準（昭和56年）に基づいて記入。

○成人施設の場合

(1) 建物面積	3884.98 m <sup>2</sup>	
	入所(通所)者1人あたり	77.69 m <sup>2</sup> (延べ床面積÷定員)
(2) 居室数 (入所施設の場合)	個室	室
	2人部屋	25 室
	3人部屋	室
	4人部屋	室
	5人以上の部屋	室
(3) 耐火・耐震構造	耐火	<input checked="" type="checkbox"/> 1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ
	耐震	<input checked="" type="checkbox"/> 1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ
(4) 建築(含大改築)年	昭和	63年
(5) 主な設備	浴室 1室 (一般浴槽1 機械浴槽1台) 食堂 1室 洗面所 2か所 トイレ 6か所	

### 【サービス利用者からの意見等の聴取について】

貴施設(事業所)において、提供しているサービスに対する利用者からの意見を聞くためにどのような取り組みをされていますか。具体的にご記入ください。

- 1 利用者満足度調査を実施し、利用者サービスについての点検と改善を行っている。
- 2 嗜好調査を実施し、利用者の食事に対する要望を把握して、献立作成に活かしている。
- 3 個別支援計画策定及び、中間評価(モニタリング)時には、アセスメントにより利用者やご家族の意見を聴取して計画に盛り込んでいる。
- 4 日帰り外出の行先の希望や、外出先での食事の希望など個別に伺うこととしている。
- 5 主要な行事である「秋まつり」には、利用者の中から実行委員を募り、利用者の意見を反映させながら行事運営を行っている。
- 6 苦情解決窓口を設置し、利用者からの意見や要望を幅広く聞く体制を整えている。
- 7 日頃から利用者、ご家族などとのコミュニケーションを大事にすることを全職員が意識するように心掛けている。

## 【その他特記事項】

貴施設（事業所）の特徴的な取り組み等について具体的にご記入ください。

### 1 利用者の重度化・高齢化への対応について

施設の重点項目にも掲げて、最重要課題として取り組んでいる。看護師・理学療法士からの日々のアドバイスなどから重度化・高齢化への意識醸成を行い、インフラ（機械浴槽の更新やナースコールの更新・ロボットベッド・オンライン面会機器等のICTの活用など）の整備や歯科医師による摂食嚥下指導を毎月行うことで安全な食事の提供と誤嚥の防止について取り組んでいる。また、利用者の高齢化と共にご家族の高齢化にも対応出来るよう、オンライン面会の機器整備や仕組み等の対応を行っている。

### 2 権利擁護・虐待防止について

○法人による年2回のセルフチェックと、施設独自の接遇チェックを行い管理者との面談を実施し、振り返りを行うことで自己点検と、改善に向けた取り組みの確認を行っている。  
○外部講師を招いての施設内研修や、外部研修に参加しそれを施設内にフィードバックすることで、利用者の権利侵害や虐待の防止などについての意識啓発を行っている。

### 3 危機管理について

○事故防止に向けた取り組みとして、毎朝の連絡会においてヒヤリハット事例の確認と水平展開を実施し、施設全体としてヒヤリハット及び事故防止への「気づき」の醸成を行っている。  
○ヒヤリハット報告に対する具体的な対策の検討については、安全管理担当会議にて事例の確認を行い、支援担当会議などでその事例に対するロールプレイを実施して、職員全員が当事者意識を持って事故防止に取り組めるよう検討を行っている。  
○新型コロナウイルス感染症や避難確保計画等策定済みの業務継続計画について、専門的知識を持った方からの指導を仰ぎ、適宜最新の状態に更新し、利用者・職員の安全を守る取り組みを継続的に行っている。

## 【第三者評価の受審状況】

・受審回数（前回の受審時期）

1 回 （平成 30 年度）